

## 平成20年度第2回岡山県医療対策協議会の概要

○日 時：平成20年11月14日（金）15:00～16:30

○場 所：県庁3階大会議室

### 【医師確保対策の推進】

- ・岡山県の医師数は増えているが、最近では減少している。自治医師の定着など、北部へ定着させる方法を考えないといけない。
- ・医師不足に対処するため、交代制勤務の導入などによる病院勤務医の過重労働の緩和施策が進められており、病院勤務医の確保のためには、長時間勤務の負担の問題がよく取りあげられるが、時間だけではなく、給与等の待遇も問題ではないか。  
開業医と病院勤務医の収入格差といったこともある。
- ・医師の考え方も変わってきている。若い人にとっては、こんなことはやってもらえないとの考えもある。若い人の気持ちを理解していく必要がある。

### 【新見中央病院への医師派遣の状況】

- ・今年6月から1年間という約束で派遣がなされている。その間に、新見市の将来の医療体制についての方針なり対策を示してもらう必要がある。それが派遣に際しての条件と考えており、それがないと、派遣の延長などは議論できない。  
また、医師の派遣による協力ではなく、遠隔診療や救急搬送の議論も必要ではないか。
- ・今回の派遣は、新見市の救急医療対策の確立が目的であった。その目的だけは、絶対に実現しなければならない。新見市の4病院の連携について、新見市と県が調整を行うべきだ。
- ・若い医師がどうしたら県北等で働いてもよいと考えるようになるか、しっかりとした議論をすべきだ。指導体制などの受入体制を整え、働きやすい環境を整備すれば、県北で働いてもよい医師も出てくるはずだ。

- ・後期研修医のプログラムに県北勤務を取り入れることも考えてみるべきではないか。
- ・県南病院から県北病院への派遣については、地域的なつながりを検討した方がよいのではないかと。

#### 【医師卒後臨床研修終了後の進路に関する調査】

- ・卒後2年目の研修医の進路を調査するのは意義のあることだ。今回は、現在県内で研修している研修医への調査であるが、研修終了後に他県から本県にやってくる医師も多い。その意味から、卒後3年目の医師に対する調査も検討してみてもらいたい。
- ・卒後5年目に後期研修する医師が多いことから、その者を対象にしたアンケートも考えてみるべきだ。

#### 【その他】

- ・当病院では、後期研修医を2人県北に派遣しているが、2人とも非常に有意義であるといっている。県南病院勤務よりゆとりがあり、地域医療にじっくりと取り込めるとの感想もある。
- ・派遣という形態であっても、不足を補う人夫のようなものは良くない。明確な業務があり、かつ、保障も十分に受け、自由度もあるような形態を築くことが必要だ。
- ・いわゆるモンスターペイシエントについても、警察との連携などを含めた対策が必要になってきている。
- ・新型インフルエンザが発生した場合の対応についても、協議していく必要がある。
- ・新型インフルエンザについては、感染症対策協議会でいろいろ検討されており、基本的にはその協議会で議論されることとなる。